

第1回西淀川区教育会議議事要旨

1 開催日時：平成28年2月16日（火）午前10時00分～午前11時32分

2 開催場所：西淀川区役所5階 区長応接室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50音順）

白井、竹本、延原、浜本

（事務局：西淀川区役所）

西田区長、橋本副区長、世古教育支援担当課長、九之池教育支援担当課長代理

（教育関係者）

池内校長

4 次第

- （1）委員ならびに関係者の紹介
- （2）教育会議について
- （3）教育に関する主な課題について
- （4）西淀川区の図書館環境の充実に向けて

5 議事内容

（1）委員ならびに関係者の紹介について

（区役所）

- ・ 西淀川区では学校や地域のニーズに合った教育施策を進めるため、分権型教育行政を推進している。
- ・ その1つとして西淀川教育会議を立ち上げることとなったが、委員は基本的には学校協議会委員の方をお願いしている。
- ・ 委員の構成として幼稚園、小学校、中学校の学校協議会委員から現在学校園に在籍している保護者と、特定地域に偏らないように各中学校下から選出している。
- ・ また大阪市の審議会の方針である女性参加率40%以上を森本委員、白井委員の就任で達成している。
- ・ 有識者については、西淀川区教育会議開催要綱 第2条にあるように「区政会

議と連携する」となっているため、西淀川区区政会議議長の学校法人好文学園の延原理事長にお願いした。

- ・ 教育関係者として小中学校の幹事校長に出席を依頼することとしており、本日は小学校校長会と日程が重なったため小学校の幹事校長は欠席しているが、西淀川区の中学校幹事校長である池内校長に参加いただいている。
- ・ 議長、副議長の推薦について、事務局から議長には延原委員、副議長には浜本委員を推薦。委員の方からは挙手により承諾を得た。

(2) 教育会議について

(区役所)

- ・ 現在大阪市の方針として教育行政においては「ニアイズベター」を徹底すると共に市政運営に抜本的な状況変化を見据えた分権化を推進し学校同士、区同士が互いに切磋琢磨し教育改革を推進するため分権型教育への転換を進めている。
- ・ 今年度より区長が西淀川区担当教育次長に就任し併せて区の職員も教育委員会事務局を兼務している。
- ・ 区担当教育次長が学校教育コミュニティのモニタリングとサポートのため、区において保護者、地域住民、校長先生の多様な意見やニーズをくみとるための組織を運営することになっており、教育会議を立ち上げることとなった。
- ・ この会議と各学校単位の地域住民や保護者で組織される学校協議会の会長方に集まっていただく学校協議会会長会と、区内の小中学校の校長先生方で組織される区教育行政連絡会、これら3つの会議を柱として分権型教育行政を進めていく。
- ・ 前もって送付している西淀川区教育会議傍聴要領で「傍聴の定員は10名とする。」と定めているが、先日開催した中学校の学校協議会会長会で、聞くべき人が遅れてしまった場合、入れなくなって意味がないのではないかといったご意見を賜り、現在「次長が特別に必要と認めた場合この限りではない」と要領の変更を検討中。

(3) 西淀川区（大阪市）における主な教育関係課題について

(区役所)

○大阪市立小学校における学校配置の適正化

- ・ 過小校（こども達、児童が少ない学校）については統合などを検討する全市的な基準がある。
- ・ 過小校は「学校がまとまりやすい」といった利点はあるが「教育活動の幅狭くなる」等の課題がある。
- ・ 児童のより良い教育環境の整備を図るため、取り組みが必要と考えられている。

- ・ 西淀川区ではすぐに取り組みなければいけないといったレベルの学校はないが、児童数が減少している学校については、学校の先生方や地域の関係者と相談しながら、より良い環境作りをしていきたい。

○学校選択制

- ・ 平成26年度入学生から導入しており、3年ほどの状況を見て一度検証が必要と考えている。

○中学校給食

- ・ 平成26年度から全員喫食が導入された。西淀川区は初年度は1年生のみ、今年度は1、2年生、来年度全学年で全員喫食になるように段階的に導入。
- ・ 方式は弁当を配達するデリバリー方式。来年度全員喫食になり支障を来さないよう各中学校や教育委員会と調整していく。
- ・ 今後は市長の方針で、自校調理方式（学校で給食を調理）や親子調理方式（中学校下の小学校で給食を調理したものを中学校に運ぶ）といった学校調理方式（親子、自校）への移行が考えられている。

○不登校対策

- ・ 先日の中学校の行政連絡会で意見が出た。
- ・ 中学校に限らず小学校にも不登校の生徒はいると聞くので今後学校と連携して区役所でできる対策を考えていきたい。

○西淀川区の図書環境の充実

- ・ 本日の議題であるので、後に説明。

○西淀川区の特色ある教育の推進

- ・ 分権型を進めていくうえで、各区特色ある取組が必要。
- ・ 西淀川区は「ものづくりのまち」ということもあり、3Dプリンターを教育分野で活用できないか検討。次回以降の議題として取り上げる予定。

○いきいき放課後事業

- ・ 多額な税金を投入している施策。
- ・ 指導員不足といった問題を抱えている。
- ・ 有効に活用するために検討が必要である。

(4) 西淀川区の図書環境の充実に向けて

(区役所)

- ・ 西淀川区では国語力、漢字力の向上に着目している。
- ・ 国語力、漢字力は話す力、理解する力、勉強の基本として必要である。
- ・ その原点になるのは読書だと考えることから、本日の議題とした。
- ・ 国語力、漢字力を向上させるためのきっかけづくりとして読書や図書環境を充実させることが有効だと考える。
- ・ この件について教育行政連絡会や学校協議会会長会でも話が出ている。
- ・ 言葉を学び、感性を磨き、想像力を豊かにするために、読書は大切であり、生まれてから絵本に出会い、学校の読書活動、市立図書館、学校、家庭、地域、図書館の連携・協力といった大人になるまで切れ目のない読書活動が大事だと考える。
- ・ 西淀川区の図書環境事例として
- ・ 西淀川図書館は中央図書館を除く23図書館の中で
- ・ 蔵書冊数1位、入館者数6位、貸出件数6位、貸出冊数6位となっていて、図書館が駅に近い等の環境もあり、図書に親しみやすい環境となっている。
- ・ 区内に大型書店がないが、Amazon などネット通販の普及に加えて、区内から電車でのアクセスが良いJR大阪駅、JR北新地駅、阪神梅田駅近くに9店舗以上の大型書店もあるので、大人であれば外出や仕事のついでに図書館や書店に寄れたり、ネットで本が買える。
- ・ しかし子ども達にとっては、かつてあった学校前や近所の本屋もなく、身近に図書に親しむ環境が十分にあるとは言い難い状況である。
- ・ 少しでも子ども達が図書に触れる機会を増やし、図書の好きな大人と交流してもらいたいことを考え佃、姫里、川北の3ヶ所に図書・自習スペース「に~よん文庫」を開設した。
- ・ 「に~よん文庫」は児童生徒の教育水準の向上や世代を超えた生涯教育の推進のため、様々な世代の区民が身近な場所で図書に親しみ交流できる場所として、ボランティアや学校PTAの協力を得て運営している。
- ・ 「に~よん文庫」の3ヶ所はそれぞれ施設の特徴を活かし多様な形態の運営をしている。
- ・ 老人福祉センターは図書ボランティアの協力を基に、施設と連携し運営をしている。夏休みは自習スペースを拡大し、多くの利用があった。また貸出等も行って高齢者との交流がある。
- ・ こども・子育てプラザは老人福祉センターと同様に図書ボランティアの協力と施設の連携で運営している。施設側が自主的に親子向けに開放する時間も設け

ており貸出も行っている。

- ・ 川北憩いの家は PTA や地域による自主的運営をしており、図書館や駅から遠い地域で近隣の小学校も積極的に協力している。また自習スペースもある。
- ・ その他の取組として、図書に親しむきっかけの提供や「に~よん文庫」の周知のため図書ボランティア、図書館、学校図書館補助員、学校園、施設、地域等多くの方と連携し図書イベントを開催している。
- ・ また区役所の1階と4階に出前に~よん文庫として、区民の方から寄贈された本を並べさせていただき、区民の方々に本を読めるスペースをつくっている。資源の活用として寄贈本の収集も行っており、当区は外国人籍の方も多く住んでおられ、多くの英語や中国語の絵本や児童書等を寄贈していただき、それらも閲覧できるように展示している。
- ・ これら図書イベントや出前に~よん文庫、福祉課の事業である「絵本展ふわふわ」と連携し相乗効果が生まれるよう多層的に展開している。

○現在の「に~よん文庫」の課題

- ・ 限られた地域での運営であり、拡充していくには、運営管理者の協力や運営費の確保等が必要である。川北に~よん文庫に関しては来年度から地域活動協議会の事業になる予定である。地域の協力が不可欠と感じている。
- ・ 自習スペースについては今年度夏休みにスペースを拡充し中学生の利用があったが、まだまだスペースが小さく十分ではないと考えている。
- ・ 図書ボランティア、図書館、学校、地域等様々な協力を得て運営しているがまだまだ人材が足りない状態である。様々なイベントで「に~よん文庫」のチラシの配布や広報紙で周知しているが、まだまだ知名度が低い状況である。現在 Facebook や Twitter でイベントや「に~よん文庫」の活動をアップロードしたりして認知度の向上に努めている。

○中央図書館との連携について

- ・ 自動車文庫ステーションが区内5箇所（出来島、大和田、川北、佃南、千船）を月1回巡回し本の貸出を行っている。昭和40年代から行っている事業で、図書館建設には多額の予算がいるため建設できない中、多くの区民の方に図書にふれあってもらいたいことから始まった。

○学校図書館の活性化について

- ・ 学校図書館という既存の財産がありながら、様々な理由で開館できていない現状がある。
- ・ 学校図書館の開館補助をするために、教育委員会事務局が予算を組み、各区に

図書館司書の資格をもった図書館補助員コーディネーターを配置し、昨年10月から各小中学校に学校図書館補助員を配置した。

- ・ チーフコーディネーターはコーディネーターと業務の進捗状況や連絡管理、研修等様々なことで連携をとっている。
- ・ 図書館補助員は教員や図書ボランティアと協力して学校図書館の開館や貸出業務、本の修理等図書的环境整備の補助を行っている。
- ・ また児童生徒に図書館を身近に感じてもらえるよう季節に合わせた飾りや図書の紹介等もされている。1月に開催した図書イベントの周知活動にも協力いただいた。

○他自治体の図書館環境事例

- ・ 1館当たりの平均人口で他都市と比較すると西淀川区は平均人口が多い。つまり図書館の密度が低い。しかし財政状況を考えると図書館を新設することは困難であることから、西淀川区では、子ども達が様々な機会と場所において、生き生きと読書を親しむことができるよう、現在ある資源を活かして読書環境の充実を図っていきたいと考えており、できることからコツコツ取り組んでいきます。本日は中学校の幹事校長先生が出席されている。そこで中学校での生徒達の本に対する反応や学校図書館補助員の配置でどのような変化があったのか等お聞かせいただければと思う。

(中学校長)

- ・ 読書については語彙を覚えて、思考力、創造力、表現力を高めるのに非常に有効な手段だと考える。
- ・ 中学校としては日常から生徒たちに読書に勤しむように話をしている。また学校だよりも中央図書館からの推薦図書リストにある本を各学年別3冊推薦し掲載している。
- ・ 生徒約600人対象に学校教育アンケートを実施した中で「読書が好き」の問で昨年は肯定的な回答が55%であったのに対して今年度は60%にあがった。
- ・ 行政が学校園などに対して本に関する施策を講じるのは良いことで、確かに図書館補助員コーディネーターの配置により各学校の図書館開館日数が増え効果があったと思う。
- ・ しかし読書活動は家庭が基本であり、家庭の教育力を高めることも必要である。
- ・ 北海道のとある市町村では4ヶ月、1歳6ヶ月、3歳児検診で図書ボランティアによる図書の読み聞かせを行い、親御さんを含め読書の素晴らしさに気づいていただく取組をしていて非常に好評だと聞いている。
- ・ 本好きな児童は、家庭内ですぐ本に親しめる環境にあり、そういった乳幼児時

期からの親を含めた環境づくりが重要だと感じる。

- ・ 家庭で親が本を読む、子どもに読み聞かせることによって子どもが読書に触れ合うきっかけになると思う。
- ・ 近年虐待事案が増えているが、これからも子どもを取り巻く環境が悪くなっていくのではないかと懸念している。
- ・ 学校を含めた行政全体で家庭にむけた教育が重要になる。
- ・ お腹に赤ちゃんがいる時から啓蒙するなど、親になるための学問「親学」が必要であるかと思う。

(区役所)

- ・ 大阪市では検診時に絵本を渡しているが、読み聞かせは大事なことだと感じるので保健担当にも共有していきたい。
- ・ 議長にも好文学園における図書取組について教えていただけるとありがたい。

(議長)

- ・ 校長の発言を聞いて、ごもつともだと感じた。
- ・ 当校の図書館は2万数千冊の蔵書がある。古い本が多いので、ここ数年読まない本を処分し新しい本の購入をしている。
- ・ 司書が展示の工夫を行っており図書館に興味を持つような取組をしている。
- ・ 数年前から漫画、雑誌以外何を読んでも良いとして朝読の時間をつくっている。
- ・ とある団体の430校ほど参加している高校生読書コンクールに参加した。11万点以上の応募の中から大賞が文部科学大臣賞等3つ入賞が150ほどあり、本校の2年生の生徒が入選した。感想文を読んでみてしっかり物事を考えることが理解できて良かったと感じた。
- ・ SNS等のトラブルについては、言葉を大事にせず感情をあらわにした言葉から揉め事になるケースが多いように感じる。ゆっくりと本を読み言葉をかみしめて、待つことができれば、トラブルを防げるのではないかと思う。今の世の中待つことが許されない時代になってきている。それが変わらないと抜本的な解決にはならないと思う。
- ・ ソニーの創業者である井深大氏著の「幼稚園からでは遅すぎる」に幼児の可能性は3歳までに決まってしまうという著されていることから分かるように、小さい時から本に親しむ家庭の習慣が必要だと感じる。

(委員)

- ・ 3人の子どもがいるが、読み聞かせは非常に大事だと考えている。自分自身が大人になり親から読み聞かせをしてもらった記憶が残っていないことが残念で、

自分の子どもには読み聞かせをしてきた。

- 一番大事に考えているのが次はどうなるのだろうといった想像力を養うことで、感動の中で感情が芽生えると思う。
- 世の中が与えることが当たり前の世界になっていて、図書に限らず形を作ってあげないとできない子ども達が増えているように感じる。
- インターネット等情報が多すぎる環境の中、親が中々制御できないが、自然に感情や思考が芽生えるような活動が必要と思う。その活動のひとつが図書であると思う。
- ものを考える力を培っていけるように、右脳を日頃から考える習慣をつけることが重要だと考えている。例えば、物が無い時に、人に聞く前にゆっくり自分で考えてみたりする習慣など、想像力を伸ばすことを日頃から考えて取り組むことが重要である。

(委員)

- 皆さんがおっしゃるように、読書については家庭の環境が非常に大事だと思う。
- 昔と違い、子ども達が学校から帰宅しても家に親がいないことが多いので、子ども達もストレスをかかえた時に、すぐに相談できず、自分でかかえてしまい、最悪の場合自殺にいたることもある。
- 家庭環境の改善も必要で、子ども達が親や年長者と会話をする機会が重要だと思う。

(委員)

- 自分自身ボランティアを含め、長年学校に関わってきた。
- 今回の教育会議の意見を聞いてきた中で、図書環境の充実というのは下地のいる大変なことだと改めて感じた。
- 活字を読むといった観点から、新聞をとってない人が多く、スマートフォンでニュースを見てる人が多い。私は新聞を読むことで考える力がつくと考えている。

(議長)

- 図書館補助員や「に～よん文庫」等のハード面の支援に家庭での図書環境づくりといったソフト面のサポートがこれから必要だという会議の内容であった。

(区役所)

- ソフト面でどのようなサポートができるのか、案があれば教えていただきたい。

(中学校長)

- ・ まずは保護者に対して家庭での読書習慣の大切さを啓発してはどうか？
- ・ しかし一般的に区役所のホームページは閲覧しないと思うので、保護者に対しては広報紙や回覧板が有効だと思う。

(議長)

- ・ 私の学校には保育進学コースがあり、卒業作品としてエプロンシアターをしている。図書イベント等で生徒たちが協力できることがあればさせていただきたい。生徒たちがその時使用した絵本をご家庭で子どもたちに読み聞かしてもらうのも良いと思う。

(区役所)

- ・ 今回の区役所のイベントでもエプロンシアターは非常に好評であった。

(委員)

- ・ PTA が協賛して、いのちの作文コンテストに参加した。子ども達が普段言葉でいえないことを、文章で伝えることができ、書いて表現することが大事だと思った。

(議長)

- ・ 最近の生徒は文字に対して弱くなってきているように思う。

(中学校長)

- ・ 確かに書く力は落ちてきているように感じる時がある。読むのも大切だが書くのも大切だと思う。

(区長)

- ・ 10年先をみて区、PTA、学校が一体となり、家庭の読書環境を良くするために取り組んでいきたい。

(中学校長)

- ・ 子どもの検診時に読み聞かせはできなくても、親御さんに手紙等を配布して読書の大切さを伝えることは非常に重要だと思う。

(5) その他

○今後の進め方について

(区役所)

- ・ 原則2ヶ月に1回の開催。
- ・ 会議資料は委員の方々に事前に送付予定。

(議長)

- ・ 今後とりあげて欲しい議題があれば事務局に伝えてもらいたい。

○次回の議案について

(区役所)

- ・ 「西淀川の特色ある教育の推進」
- ・ 中学校給食について状況報告を行う予定。